

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名	四国横断自動車道 <small>あなんしまんと</small> 阿南四万十線 <small>あなん とくしまひがし</small> 阿南～徳島東		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市下大野町 至：徳島県徳島市北沖洲				延長	17.7km
事業概要	<p>四国横断自動車道は、阿南市を起点に、徳島市、高松市を経て四国中央市において四国縦貫自動車道と交差し、高知市、四万十市を経て大洲市に至る延長約440kmの高規格幹線道路である。この路線は、四国の東南地域、西南地域のミッシングリンク（高速ネットワーク空白地帯）を解消し「四国8の字ネットワーク」を形成することで、四国における信頼性の高い道路ネットワークの確保や地域格差の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な路線である。</p> <p>阿南～徳島東間は、新直轄方式により整備される区間であり、徳島東南地域のミッシングリンク解消のために計画されている地域高規格道路「阿南安芸自動車道」と相まって、徳島東南地域の発展に重要な役割を果たすことが期待されている。</p>					
阿南～小松島：H15年度事業化 小松島～徳島東：H10年度事業化	阿南～小松島：H8年度都市計画決定 (H12、H18年度変更) 小松島～徳島東：H6年度都市計画決定 (H19年度変更)	阿南～小松島：H20年度用地着手 小松島～徳島東：H20年度用地着手	阿南～小松島：H20年度工事着手 小松島～徳島東：H27年度工事着手			
全体事業費	約1,545億円	事業進捗率	約53%	供用済延長	0.0km	
計画交通量	15,600～22,200 台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) (残事業)	総費用 (残事業)/(事業全体) 554/1,570億円 (事業費：504/1,519億円) (維持管理費：50/50億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,865/1,865億円 (走行時間短縮便益：1,630/1,630億円) (走行経費減少便益：184/184億円) (交通事故減少便益：51/51億円)	基準年	令和元年	
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C= 1.1～1.3 (交通量±10%) (残事業) B/C= 3.0～3.8 (交通量±10%) 事業費：B/C= 1.2～1.2 (事業費±10%) B/C= 3.1～3.7 (事業費±10%) 事業期間：B/C= 1.1～1.3 (事業期間±20%) B/C= 3.1～3.6 (事業期間±20%)					
事業の効果等	①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間時間損失の削減が見込まれる ・現道等における混雑時旅行速度20km/h未満である区間の旅行速度の改善が見込まれる ・現道等に当該路線の整備による路線バスの利便性向上が見込まれる ・徳島阿波おどり空港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・徳島市から徳島小松島港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる ・県南部における農林水産品（阿波尾鶏、キュウリ、太刀魚、アワビ、伊勢エビ等）の流通の利便性向上が見込まれる ③国土・地域ネットワークの構築 ・地方拠点都市「徳島東部」～「なんごく・こうち」を連結する四国8の字ネットワークの一部を構成する ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連結する路線を構成する ④個性ある地域の形成 ・辰巳工業団地、大湊新浜工業団地、わじき工業団地、徳島県南部運動公園の整備や展開を支援する ・徳島県LEDバレイ構想を支援する ・主要な観光地へのアクセス向上が期待される（室戸阿南海岸国定公園、室戸ジオパーク等） ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（徳島赤十字病院）へのアクセス向上が見込まれる ⑥安全な生活環境の確保 ・現道等における安全性の向上が期待される ⑦災害への備え ・第一次緊急輸送確保路線に指定されている現国道11号、55号が通行止めになった場合の代替路線を形成する ⑧地球環境の保全					

・CO2 排出量の削減が見込まれる

⑨生活環境の改善・保全

・NOX 排出量の削減が見込まれる

・SPM 排出量の削減が見込まれる

⑩他のプロジェクトとの関係

・徳島小松島津田地区地域活性化計画と連携

・マリニピア沖洲整備計画と連携

関係する地方公共団体等の意見

・徳島県、徳島市、小松島市、阿南市、阿南市高規格道路建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。

・徳島県知事の見解

「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」の事業を継続するという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」は、「四国8の字ネットワーク」を形成し、南海トラフ巨大地震を迎え撃つ「命の道」はもとより、経済・産業の発展、観光振興など、地方創生を実現する重要な社会資本であります。このため、引き続き、コスト削減を図るとともに、県といたしましては、立江櫛淵地域活性化インターチェンジの整備等に全力で取り組んで参りますので、「立江櫛淵・阿南間」の先行供用はもとより、1日も早い全線供用をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年3月 (主) 徳島環状線 川内町大松～平松 延長1.3km 開通
- ・平成23年4月 桑野道路事業化
- ・平成23年7月 日和佐道路 延長3.1km 2車線 開通
- ・平成24年4月 阿南安芸自動車道 福井道路 延長9.6km 事業化、松茂スマート IC 許可
- ・平成24年12月 (主) 徳島環状線 川内町平松～住吉 延長3.7km 開通
- ・平成27年2月 徳島環状道路 上八万 IC～法花 IC 延長1.9km 開通
- ・平成27年3月 徳島自動車道 鳴門 JCT～徳島 IC 延長10.9km 開通
- ・平成27年7月 津田 IC(仮称) 連結許可
- ・令和元年9月 立江櫛淵 IC(仮称) 連結許可

事業の進捗状況、残事業の内容等

・用地進捗率約97%、事業進捗率約53% (平成31年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・阿南 IC(仮称)～小松島 IC(仮称)間は、トンネル工事等に着手しており早期開通に向け工事推進中
- ・小松島 IC(仮称)～津田 IC(仮称)間は、用地買収推進中。
- ・津田 IC(仮称)～徳島東 IC(仮称)間は、橋梁工事等に着手しており、令和2年度開通目標。

施設の構造や工法の変更等

・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの削減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの削減に努めていくこととする。

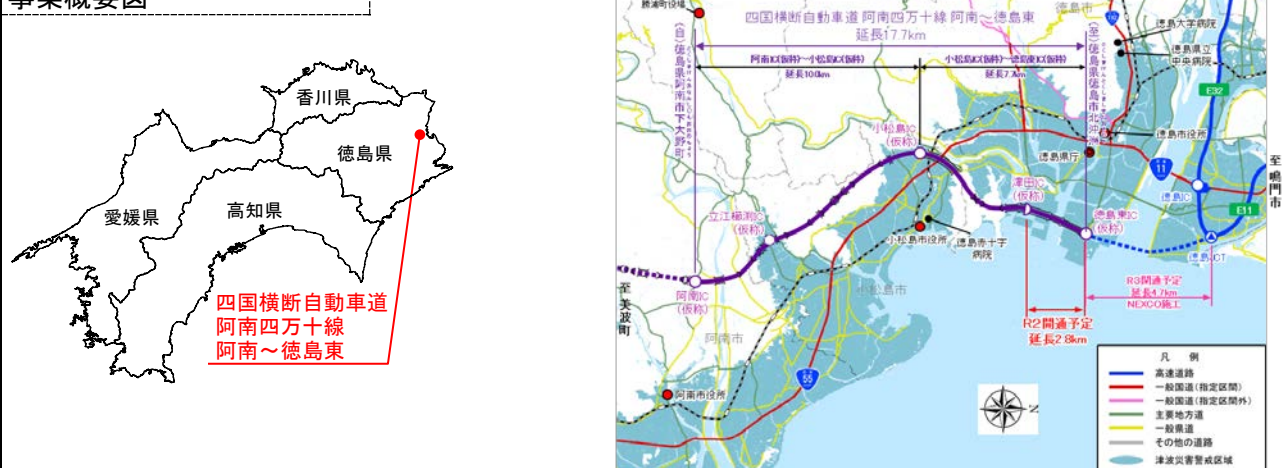
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。